

【実践報告4】

これからの時代に求められる資質・能力を育む学びの 在り方に関する研究

— 県立高等学校「総合的な探究の時間」の計画と実践 —

愛知県立津島東高等学校

1 はじめに

本校は1学年6クラス（定員240名）で、在籍する生徒の多くが近隣の市町村出身である地域に根ざした学校である。大半の生徒が大学・短期大学・専門学校への進学を希望しており、自己の進路実現のために学業に取り組んでいる。また、学業だけにとどまらず、多くの部活動で県大会や東海大会へ出場する等の成果を上げていたり、ボランティア活動にも多くの生徒が積極的に参加していたりする等、校訓の「智・剛・恕」の精神の下、文武両道で生徒を育成する教育が実践されている。しかし、近年は入学者が定員割れをしている現状もあり、今後は地域とともに更なる学校の魅力化・特色化を図っていくことが求められている。

本研究では、そのような現状を踏まえながら本校が「総合的な探究の時間」の目標や計画の策定から実践を通して、これからの時代に求められる資質・能力を育む学びの在り方について考察した令和2年度（以下、一昨年度）から令和4年度（以下、本年度）までの取組について記す。

2 実践内容

(1) 目標の策定

本校の以前の「総合的な学習（探究）の時間」では、3年間を見通した目標や計画が十分機能しておらず、その場その場で必要なことを考えながら行っているような状況であった。そこで、改めて「総合的な探究の時間」の目標を策定し、全教員で共有することが必要だと考え、一昨年度に本校生徒や本校を取り巻く外的環境の強み、弱みを洗い出すためのSWOT分析を全教員で行った。そして、学習指導要領の「総合的な探究の時間」の目標とSWOT分析の結果を踏まえながら、本校における「総合的な探究の時間」の目標（資料1）を下記のように策定した。

【資料1 本校における「総合的な探究の時間」の目標】

知識及び技能	探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、広く深い興味関心と英知を養う。
思考力、判断力、表現力等	自ら課題や目標を設定し、計画を立てて探究を進めることで、自己管理能力とやり抜く力を養う。また、自分の意見や考えをまとめて、それを表現できるようにする。
学びに向かう力、人間性等	探究を通して、主体性及び他者と協働的に学習する態度を育て、自ら社会に関わり参画しようという意志を養う。

育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って目標を設ける形式としたことで、目標を実現できているかどうかの評価もしやすくなると考えた。現在はSWOT分析で多くの教員が本校生徒の弱みであり伸ばしたい資質・能力と考えていた「主体性を伸ばす」ということを特に意識して教育活動を行っている。

(2) 全体計画と探究課題の策定

上記の目標を踏まえ一昨年度に全体計画を作成し、探究課題を定めた（資料2）。その計画を基に令和3年度（以下、昨年度）に実践したところ、「じっくりと時間をかけて探究するには時間が足りない」という課題が浮き彫りになったため、全体計画を改定し、探究課題のスリム化を図ることとした（資料3）。

【資料2 当初の全体計画での探究課題】

進路探究学習（第1，2，3学年）
地域探究学習（第1学年）
沖縄探究学習（第1，2学年）
学問探究学習（第3学年）

【資料3 改訂後の全体計画での探究課題】

進路探究学習（第1，3学年）
地域探究学習（第1学年）
×
テーマ別探究学習（第2・3学年）



策定当初は時間を持て余してしまうのではないかと心配していたが、こちらが想定した以上に生徒たちは真剣に探究活動に取り組む。計画を作成する際には、探究活動を盛り込みすぎないことがポイントである。

(3) 事例紹介「地域探究学習～津島発見プレゼン～（第1学年）」

「地域探究学習～津島発見プレゼン～」は、第1学年の2学期の後半にかけて取り組む探究課題で、昨年度から実施している。研究校に指定される以前は、津島市役所の職員から「地域の魅力・課題について」の講演をしていただき、それを踏まえて「どうしたら地域の魅力をつくることができるか。どうしたら地域の課題を解決することができるか」を考えさせる取組を行っていた。しかし、教員が期待するほどには、生徒の主体的な取組とすることができていないという課題があった。その原因は全ての生徒が同じ市町村から通う小中学校とは違い、高等学校においては、そもそも津島市のことをよく知らない、津島市に愛着がないという生徒も含まれているからではないかと考え、地域の魅力をつくることや課題の解決を考えるという取組ではなく、実際に津島駅周辺をフィールドワークすることで地域の魅力を発見するという取組に変更した。

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 高等学校 総合的な探究の時間編」を参考にして、以下のア～エの四つの要素を構造的に配列し、「単元の目標」（資料4）を作成した。

- ア 探究課題を踏まえた単元において中心となる学習対象や学習活動
- イ 育成を目指す資質・能力のうち、単元において重視する「**知識及び技能**」
- ウ 育成を目指す資質・能力のうち、単元において重視する「**思考力，判断力，表現力等**」
- エ 育成を目指す資質・能力のうち、単元において重視する「**学びに向かう力，人間性等**」

【資料4 単元の目標】

単元の目標
ア <u>津島駅周辺のフィールドワークを含む地域探究活動を通して</u> 、津島市の魅力や課題について理解する。インターネットからの情報収集にとどまらず、 <u>ウフィールドワーク（現地調査・取材）</u> でしか得られない情報を収集し、 <u>イ人を引き付ける作品を作成できるようにする</u> 。エ <u>この活動を二人ペアで行うことで、他者と協働しながらも、人任せにせず主体的に取り組む態度を養う。</u>

指導と評価の計画（資料5）は、本校の教員が最も意識している「主体性を伸ばす」ということを

念頭において、全ての生徒が人任せにせず前向きに取り組むことを意図し、グループ活動ではなくペア活動で行うこと、津島市について知識や愛着がない津島市在住ではない生徒を含め全ての生徒が自分事として考えることを意図して実際に津島駅周辺のフィールドワークをすること、作品を完成させるだけでなくクラスや学年での発表という人前で話すことを取り入れることなどを組み込んだ活動の展開を考えた。また、評価の場面を精選して無理のない設計をした。

【資料5 指導と評価の計画】

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	学習状況の観点			評価方法
		知・技	思・判・表	主態	
1 課題設定 情報収集 (6)	<ul style="list-style-type: none"> 活動の目的・流れについて理解する。 ペアでコースを選択し、インターネットを用いて情報を収集し、作品の下書き・レイアウトを考えて、フィールドワークの計画を立てる。 フィールドワーク（現地調査や取材）でしか得られない情報を収集する。 				
2 情報整理 まとめ・発表 (5)	<ul style="list-style-type: none"> 作品（A3用紙）の下書き・レイアウトを考える。 ある程度完成したところで、他のペアと意見交換し、お互いに助言する。 再考し、作品を完成させる。 完成した作品を教室掲示し、作品について相互評価（投票）し、優秀5作品を選出する。 優秀5作品のペアがクラスで発表を行い、発表内容について相互評価（投票）し、クラス優秀賞ペアを選出する。 各クラス優秀賞ペアが学年全体の前で発表を行い、作品と発表内容について相互評価（投票）し、学年最優秀賞ペアを選出する。 振り返りをする。 	○	○	○	ペア活動観察 作品 相互評価（投票）

「評価ルーブリック」（資料6）の作成に当たっては、「『指導と評価の一体化』のための学習評

【資料6 評価ルーブリック】

評価の観点	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
知識・技能	人を引き付ける作品を作成する技能を身に付けている。	作品を作成する技能を身に付けている。	作品を作成する技能を身に付けていない。
思考・判断・表現	フィールドワークを効果的に活用して、地域の魅力や課題について必要な情報を取捨選択して収集している。	地域の魅力や課題について必要な情報を取捨選択して収集している。	地域の魅力や課題について必要な情報を取捨選択して収集していない。
主体的に学習に取り組む態度	他者と協働的に取り組むだけでなく、自ら率先して主体的に取り組んでいる。	他者と協働的に取り組んでいる。	他者と協働的に取り組んでいない。

価に関する参考資料「高等学校 総合的な探究の時間編」を参考にした。そこには、育成を目指す資質・能力の三つの柱に対応した形で「知識・技能」では三つ、「思考・判断・表現」では四つ、主体的に学習に取り組む態度では三つの評価のポイントが考えられると示されているが（資料7）、その全てを一つの単元の中で評価することは難しいと考えたため、この単元では、「知識・技能」については「②技能」を、「思考・判断・表現」については「②情報の収集」を、「主体的に学習に取り組む態度」については「②主体性・協調性」をそれぞれ評価することとした。

【資料7 単元の評価規準の作成ポイント】

知識・技能	①知識 ②技能 ③探究の意義や価値の理解
思考・判断・表現	①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現
主体的に学習に取り組む態度	①自己理解・他者理解 ②主体性・協働性 ③将来展望・社会参画

フィールドワーク当日には、10名程度の地域ボランティアの協力を得て、フィールドワーク中の生徒に対して地域の魅力について解説をしてもらった。その後、フィールドワークを効果的に活用した内容のポスター作品（資料8）と発表スライドを作成し、クラスや学年で発表を相互評価して、最後に活動を振り返ることで単元を終えるというのが当初の計画であった。

【資料8 ポスター作品の一例】



ところが、津島市教育委員会から「地域探究を行った高校生に小学校で授業してもらえないか」という依頼を受け、急遽一部のペアが小学校で出前授業をすることとなった。そもそも小学生に発表することを想定してスライドを作成させていなかったこともあり、依頼を受けた教員は否定的、消極的な反応であったが、発表をすることになった生徒たちが「どうしたら小学生に分かりやすく伝えることができるか。どうしたら小学生に積極的に参加してもらえるか」を工夫して準備をしている姿や小学生の前で堂々と発表している姿、また生徒の発表を聞いている小学生が主体的に学ぼうとしている姿を見て、「小学校での授業があったから、生徒が自己有用感を感じることができる取組になった」と考えるようになった（資料9）。「地域探究学習～津島発見プレゼン～」は、生徒がフィールドワークを行い自分の足で得た情報や地域について詳しい地域ボランティアから教えてもらった情報を自分の中で整理してまとめ、それを地域の小学生に還元するという正に「地域とともにある学校」の取組の好事例となった。

【資料9 小学校での発表の様子】



本年度に昨年度の反省を踏まえて改善したことは、フィールドワークをより充実させるために事前に地域ボランティアから見るべき観点を話してもらおうということ、ペアではなく4人グループで役割分担をして行うことで

生徒の負担を軽減するということが、協力してもらった地域ボランティアを発表会に招待するということである。教科書や指導書のない「総合的な探究の時間」においては、P D C Aサイクルを意識し、どんどん改善していくことが大切である。

3 成果と課題

一昨年度からの3年間の研究を通じての一番の成果は、全教員でSWOT分析により生徒に身に付けさせたい資質・能力を考え目標を策定して共有できたことである。それにより、目標を実現するための全体計画、学年計画を策定し、可能な限り生徒自らが取り組む形の生徒の主体性を伸ばす「総合的な探究の時間」をつくり上げることができた。さらに、策定した目標は「総合的な探究の時間」だけにとどまらず、昨年度に策定したスクールポリシーにも反映され、その他の学校行事等の改善にも役立てることができた。SWOT分析により学校の目標を策定することは多くの学校で実施されていることかもしれないが、SWOT分析を目標の策定を目的として行うだけでなく、「SWOT分析→目標の策定→〇〇の改善・改革」というように、具体的な取組の改善・改革までをセットで行うことが大切である。また、「総合的な探究の時間」は多くの教科の教員が指導に携わっているため、「総合的な探究の時間」を通してICTの活用方法や主体的・対話的で深い学びの実現について教員に飛躍的に普及させていくことができた。「総合的な探究の時間」を変えることで生徒だけでなく教員が変わり、そして学校が変わっていくと言える。

一方で、一番の課題は、担当者の負担が大きいということである。その負担を解消するためには委員会を組織し、時間割内に会議の時間を組み込むことが必要不可欠である。その委員会の中で、どのような探究活動に取り組むか、どのような計画で行うかの原案を作成していくことになるが、主となる担当教員が一人で原案を作成し、それを叩き台として案を練り上げていく形では、原案を作成する主となる担当教員の負担が大きいので、まず原案を作成するための話し合いの時間を会議の中に設けることが必要である。それに加えて、話し合いを重ねて複数の教員で協働して探究活動の内容や指導計画を完成させた後は、教員用マニュアルの作成、生徒用ワークシートの作成を分担して行う必要がある。「教員の働き方改革」が求められる昨今において多忙化解消を図りながらも充実した「総合的な探究の時間」を実現するためには、民間教材の導入を検討することも考えられるだろう。

もう一つの課題は、持続的な「総合的な探究の時間」の目標の共有である。人事異動に伴い、主となる担当教員の転出やこれまでの流れを知らない教員の転入があっても、持続的に「総合的な探究の時間」の目標を共有し、形骸化することなく探究活動を継続していくためには、本校における「総合的な探究の時間」の目標等が一目で理解できるリーフレットを作成し、年度初めの職員会議等で共有する必要があると考えられる。

津島東高等学校 「総合的な探究の時間」 全体計画

第1の目標	各学校における教育目標
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>	<p>教育基本法の精神に則り、わが国の文化的遺産を継承して、生生発展する社会の有為な担い手となり得る、心身ともに健全で、真理と正義を愛し、奉仕と敬愛の念にあふれた人間の育成に期する。特に、英知を磨くことと、人間性を磨くことは表裏一体であるという「行学一如」の精神にもとづき、次の三項目を校訓として掲げ、本校教育の根幹とする。</p> <p>校訓「智・剛・恕」</p>



各学校において定める 目標
<p>知識及び技能 探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、広く深い興味・関心と英知を養う。</p> <p>思考力、判断力、表現力等 自ら課題や目標を設定し、計画を立てて探究を進めることで、自己管理能力とやり抜く力を養う。また、自分の意見や考えをまとめて、それを表現できるようにする。</p> <p>学びに向かう力、人間性等 探究を通して、主体性及び他者と協働的に学習する態度を育て、自ら社会に関わり参画しようという意志を養う。</p>



各学校において定める 内容	
目標を実現するにふさわしい 探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す 具体的な資質・能力
<p>進路探究学習【第1, 3学年】 自己の在り方生き方を考えながら、学問や職業や働き方についての情報をインターネットや職業人インタビューを通じて収集し、比較・分類・関連付けして整理してまとめる。</p>	<p>知識及び技能 さまざまな学問や職業について知識を深め、広く深い興味・関心をもつ。</p> <p>思考力・判断力・表現力等 考えるための技法を活用し、情報を整理・分析することができる。</p> <p>学びに向かう力、人間性等 自己を理解し、自分の将来のことを真剣に考え、主体的に行動しようとする。</p>
<p>地域探究学習【第1学年】 地域の魅力について、インターネット等から得た情報を基にフィールドワークを通して深め、まとめ・発表する。</p>	<p>知識及び技能 地域の魅力や課題を理解する。</p> <p>思考力、判断力、表現力等 さまざまな方法で入手した情報を基に、自分の考えを分かりやすくまとめ・発表することができる。</p> <p>学びに向かう力、人間性等 他者を理解し、協働的に課題を解決しようとする。</p>
<p>テーマ別探究学習【第2, 3学年】 自分の興味・関心に基づいた課題を設定し、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する。</p>	<p>知識及び技能 探究を通して、探究の意義や価値を理解することができる。</p> <p>思考力、判断力、表現力等 探究にふさわしい課題を設定することができる。</p> <p>学びに向かう力、人間性等 探究学習を自ら社会に関わり参画しようとする。</p>



教科・科目を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力	
情報活用能力	言語能力
<p>書籍、インターネット、アンケート、インタビュー、フィールドワーク等からの情報を必要に応じて効果的に活用する。</p>	<p>・考えるための技法を身に付ける。</p> <p>・ワークシート、レポート、ポスター、プレゼンテーションソフト（スライド）、作文、論文等、さまざまな形式を取り入れる。</p>

【別紙2 年間計画（第1学年）】

「総合的な探究の時間」年間指導計画（第1学年）

愛知県立津島東高等学校

指導方法	学年集会，各HRでのグループ活動・個人活動	
指導体制	総合プロジェクトチームと学年会との連携，外部講師	
学習評価	知識・技能	広く深い興味・関心と英知を身に付けている。
	思考・判断・表現	自ら課題や目標を設定し，計画を立てて探究を進め，自分の意見や考えをまとめて，それを表現することができる。
	主体的に学習に取り組む態度	主体的に協働的に探究活動に取り組み，自ら社会に関わり参画しようとしている。

時間	単元	小単元	学習内容（テーマ）	学習活動
1			オリエンテーション	「総合的な探究の時間」の意義や内容を理解する。特に「自分で問いを見いだすこと」が大切であることを理解する。
2	進路探究学習／職業人インタビュー	進路を考える	進路適性検査	進路適性検査により，自分の適性を考える。
3			幸せとは？	進路探究学習の意義を理解する。
			夢を見つけるには？	将来について前向きに考える。
4			類型選択について	類型の特徴・違いと類型選択の流れを理解する。
			学問を知る1	学問を系統に分類する。
5		学問を知る2	自分史（春休み課題）や進路適性検査結果を振り返り，自分の特性や興味・関心，資質・能力と関連する学問や職業を調べる。	
6		職業人インタビュー	働くとは？	これからの時代の働き方を理解する。夏休み中にインタビューをする職業人の候補を選ぶ。
7			概要説明・候補の選定	
8			アポイント・内諾	候補先にアポイントを取り，内諾をもらう。
9				
10			日程調整	候補先と日程を調整し，インタビュー先を確定する。
11			インタビュー原稿	インタビュー原稿を考える。
12			インタビュー報告書作成	インタビューした内容を報告書にまとめる。
13	インタビュー振り返り	職業人インタビューの振り返りを通して，自分の進路について考える。		
14	地域探究学習	課題設定・情報収集	地域探究学習導入	地域探究の目的と今後の流れを理解する。
15			活動ペア決め・コース決め	活動ペアを決める。フィールドワークをするコースを決める。
16			事前学習・計画作成	フィールドワーク計画を立てる。インターネットや書籍を用いて下調べをする。まとめのレイアウトを考える。
17			フィールドワーク	フィールドワークでしか得られない情報（自分で写真を撮影・インタビュー等）を得る。
18 19				

20	地域探究学習	情報整理・まとめ	情報整理	作品の下書き・レイアウトを考える。ある程度完成したところで、他のペアと意見交換し、お互いに助言し合う。
21 22			まとめ	ペアで協力し、A3用紙にまとめ、作品を完成させる。完成した作品をクラスで掲示し、相互評価（投票）により優秀5作品を選出する。
23			クラス発表	優秀5作品のペアがクラスで発表を行う。相互評価（投票）によりクラス優秀賞ペアを選出する。
24			学年発表 地域探究学習振り返り	各クラス優秀賞ペアが学年で発表を行う。相互評価（投票）により学年最優秀賞ペアを選出する。 地域探究学習の振り返りをする。
25	進路探究学習～ライフプラン～	ライフプランニング	ライフプラン導入	ライフプランの目的と今後の流れを理解する。 家族班・家班・車班・旅行班にグループ分けをする。
26			情報収集	各班の内容について費用やメリット・デメリットを調べる。
27 28			ライフプラン授業	外部講師によるライフプラン授業。各班で調べた内容を基に、お金の面からライフプランを考える。
30 31 32 33			金融教育～調べ学習～	収入グループと支出グループに分けて、調べ学習を行う。各自が調べた内容をクラスで情報共有する。
34 35			ライフプラン振り返り	ライフプランの振り返りとして、マインドマップを作成し、自分の生き方を考える。

【別紙3 年間計画（第2学年）】

「総合的な探究の時間」年間指導計画（第2学年）

愛知県立津島東高等学校

指導方法	学年集会，各HRでのグループ活動・個人活動	
指導体制	総合プロジェクトチームと学年会との連携，外部講師	
学習評価	知識・技能	広く深い興味・関心と英知を身に付けている。
	思考・判断・表現	自ら課題や目標を設定し，計画を立てて探究を進め，自分の意見や考えをまとめて，それを表現することができる。
	主体的に学習に取り組む態度	主体的に協働的に探究活動に取り組み，自ら社会に関わり参画しようとしている。

時間	単元	小単元	学習内容（テーマ）	学習活動	
1			オリエンテーション	「総合的な探究の時間」の意義や内容を理解する。 探究のプロセスを理解する。	
2	テーマ別探究学習	課題設定	テーマ設定	探究に結び付くテーマを設定する。（「〇〇について」）	
3			テーマ調べ学習	テーマについて調べることを通して，複数の問いを見出す。 （「なぜ～～なのか」「どうしたら～～になるのか」）	
4					
5					
6					
7			課題の設定	問いを一つに絞り，課題を設定する。教員とロイロノートで相互にやり取りする中で，探究にふさわしい課題にしていく。 教員はスタディサプリのアンケート機能で課題を集約する。	
8					
9					
10		学問を考える	自分が設定した課題がどんな学問に当てはまるかを考えさせる。 担当教員と教室を割り振る。		
11		仮説の設定	自分の立てた課題に対して，仮説を立て，調べる内容と方法を考える。		
12		情報収集・整理・分析	情報収集1	情報が出てこない場合は，問いを作り直す。 すぐに答えが見つかった場合は，複数の情報源に当たる。 教員はロイロノートを用いて，助言を行う。 インターネット以外の手段も用いて情報を収集する。	
13					
14	模擬講義		自分の取り組む課題に属する分野を選び，大学の先生による模擬講義を受け，知識を深める。		
15					
16	整理・分析		情報マップを作り，整理・分析する。追加で疑問に感じたことについて調べる。答えの根拠をはっきりさせる。		
17					
18	中間発表	小グループ内で中間発表を行い，お互いに疑問を出し合ったり，助言し合ったりする。			
19					
20		情報収集2	中間発表で得られた助言を参考に振り返り，より説得のある主張を目指して，情報を収集する。		
21					
22					
23					
24					
25					

26	テーマ別探究学習	発表	発表資料作成	ロイロノートを用いて発表資料を作成する。視覚的に見やすい資料を作成する。				
27			発表	発表練習	発表の流れを考える。(課題の説明→課題を設定した理由→仮説→調査方法の説明→テーマに関する基本情報→結論・根拠の説明→今後に向けた課題)			
28						発表	グループ発表	グループ内で発表する。相互評価を行う。
29								
30		発表	学年発表	グループ発表でよかった生徒が学年発表を行う。				
31			1年間の振り返り	自分の将来について考える。				